

『鉄筋施工業務及び鉄筋継手業務』 安全衛生のポイント

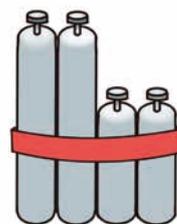
ガス圧接継手・機械式継手作業

(1) ガス圧接では可燃性のある危険物を扱います。
細心の注意が必要です！

■ ボンベや道具の始業前点検を怠らないようにしてください！

■ ボンベの正しい移動方法
・ ボンベはかついだり、転がしたりしないように！

■ ボンベの正しい設置方法
・ ボンベが倒れたり転んだりしないよう、平らな場所に設置する！
・ 転倒防止のためボンベはバンド、チェーンなどで固定する！
・ 日差しを避ける。近くに消火器を設置する。



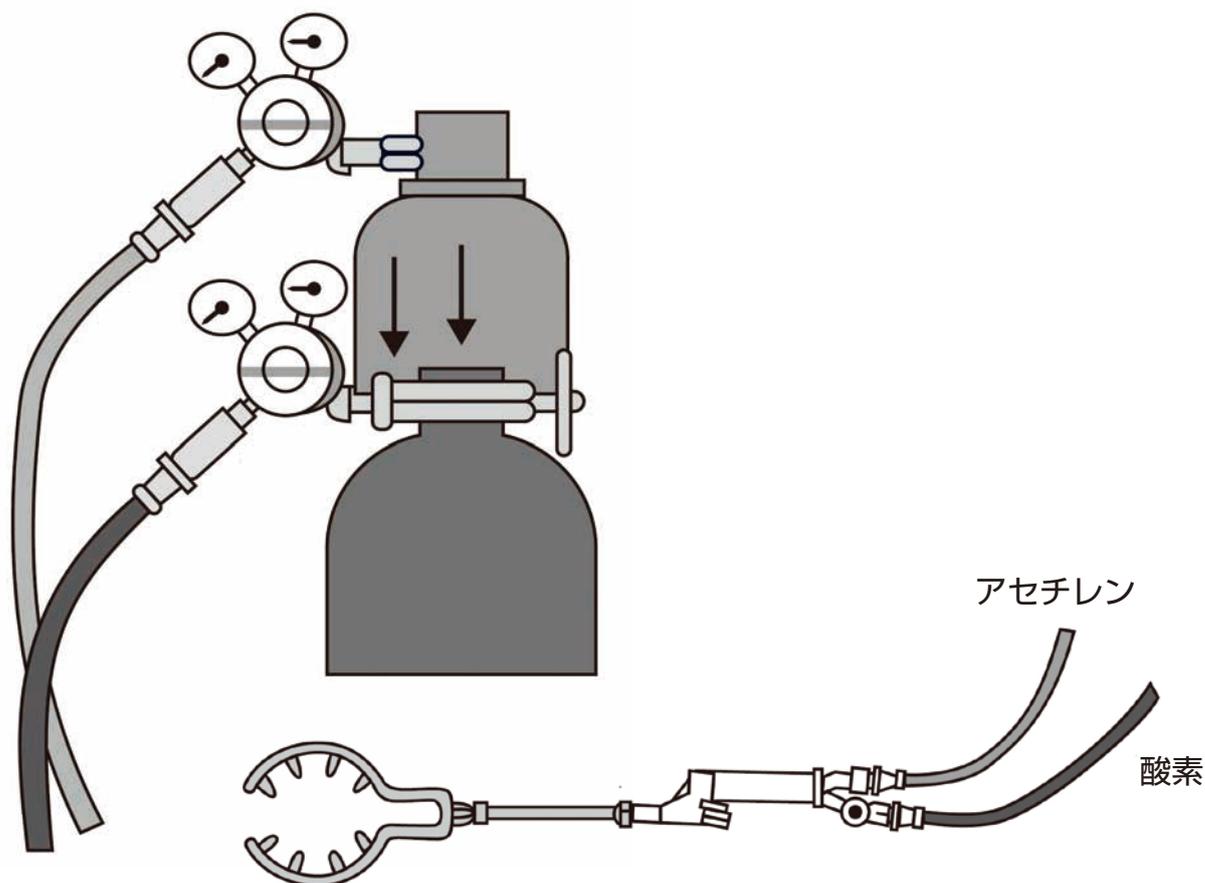
専用バンドで固定



水平で安定の良いところ

(2) ガス圧接作業における始業前のガス漏れ点検

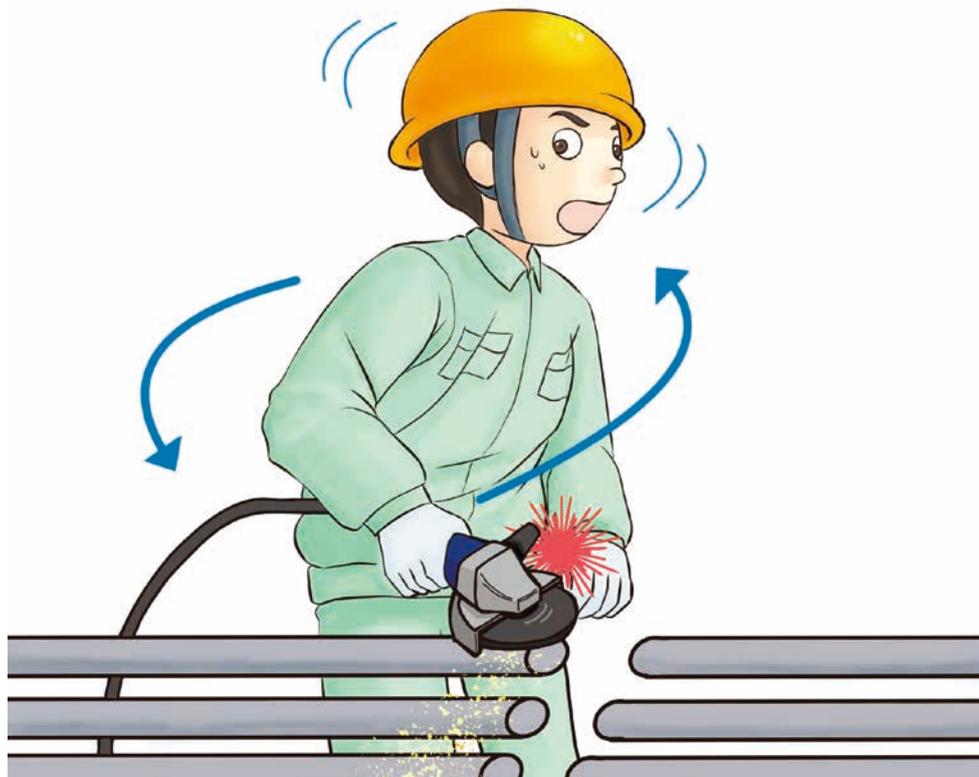
- ・ホースの取り付け金具に緩みや付着物がないか確認する！
- ・各バルブに緩みがないか確認する！
- ・ボンベ解放後にシューツという音がないことを確認する！
- ・取り付け部の各所に石鹼水を使用し、ガス漏れを点検する！



吸い込みの点検も怠らないこと

- ・吹管からアセチレンホースを外し酸素バルブを開け、アセチレンのガス取り入れ口に手が吸い込まれるのを確認する！
発火の原因となるので点検を確実に行う！

(3) ガス圧接作業における災害事例 No 1



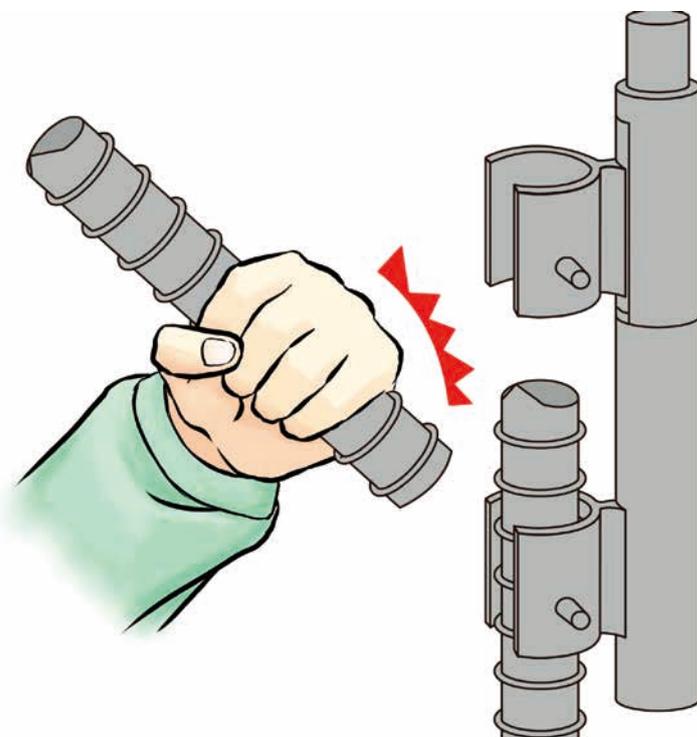
発生状況

鉄筋端部を研磨中、身体の向きを変えようとした際に、グラインダーの安全カバーとといしのすき間に手袋が巻き込まれ、回転といし刃により手首を切傷した。

守るべきこと

- ①グラインダー作業の開始前に危険のポイントを再確認すること。
- ②といし刃が回転している状況では刃から目を絶対に離さないこと。
- ③研磨以外の行動を取る場合には、必ずスイッチを切り、グラインダーを停止させること。

(4) ガス圧接作業における災害事例 No 2



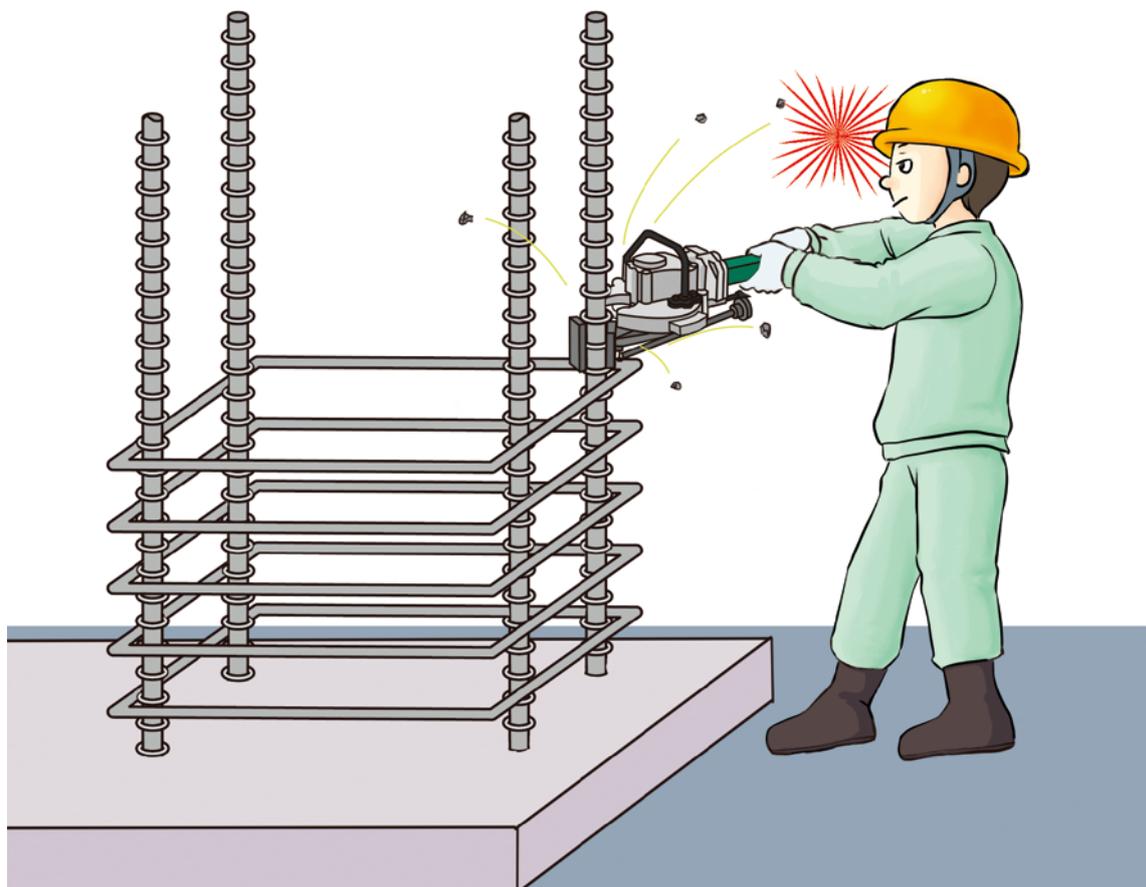
発生状況

一人で柱筋の圧接作業中、柱筋と圧接支持器の固定がずれ、柱筋が傾いていた。傾きを修正しようと固定ボルトを緩めた時に、柱筋が倒れ、支持器と鉄筋の間に指を挟んだ。

守るべきこと

- ①柱筋と圧接支持器の修正を行う場合は2人で行うこと！
- ②作業員が焦ることのないよう、作業の流れをつくること
- ③「慣れた作業にこそ落とし穴がある」と再認識し、日々初心を忘れないよう心掛けること。

(5) ガス圧接作業における災害事例 No 3



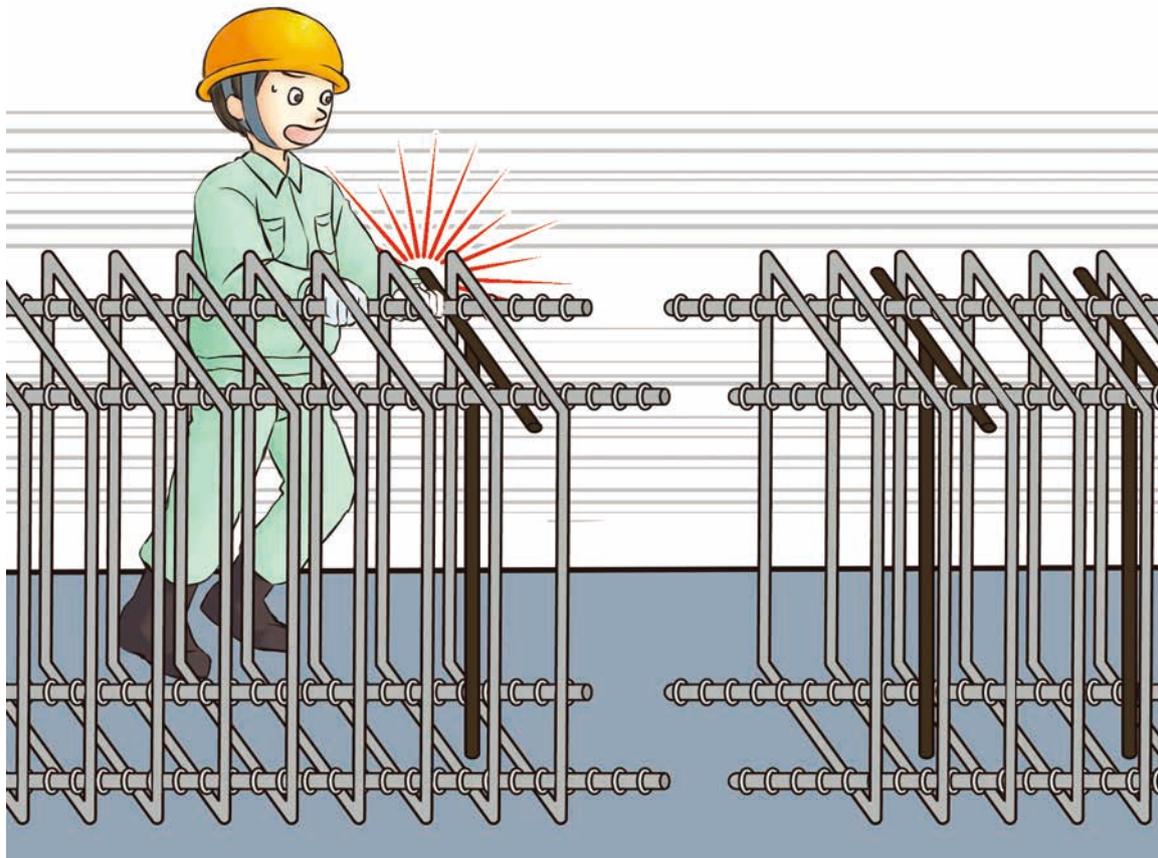
発生状況

冷間直角切断機により、保護メガネを着用せず、柱主筋の目の高さの端部を切断していたところ、鉄筋の切り粉が飛散して目に入った。

守るべきこと

- ①柱筋の高さ（台）が高い場合には、可搬式作業台などを使用して作業すること。
- ②保護メガネを適正に着用すること。
- ③切り粉の落ちる方へ向く姿勢を避けること。

(6) 機械式継手作業における災害事例 No 1



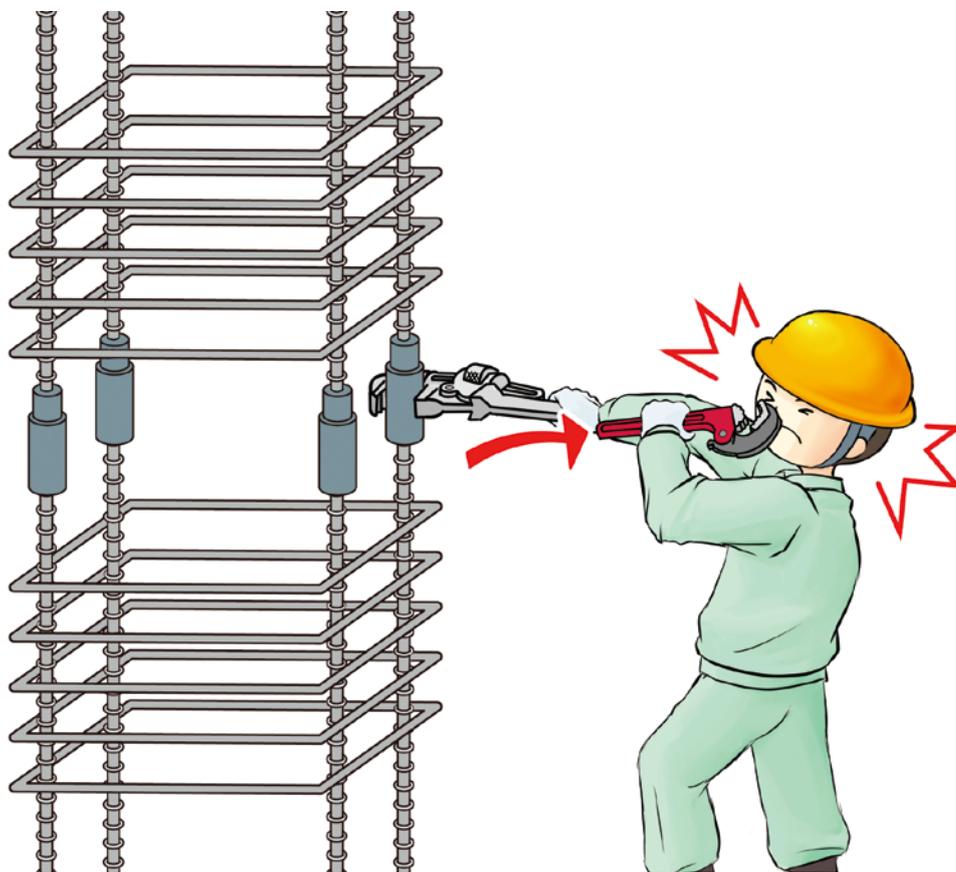
発生状況

地中梁の機械式継手作業中、梁主筋間が広くはめあい位置に収まらないため、梁主筋を二人で引っ張った時に、タイミングがずれて基礎エースに指を挟んだ。

守るべきこと

- ①複数で同一作業を行う場合には、大きな声で声を掛け合うこと。
- ②想定外のタイミングで材料が動いてもケガをしない位置で作業すること。

(7) 機械式継手作業における災害事例 No 2



発生状況

柱主筋継手のトルクナットの締め付け作業中、カップラーを押さええていたパイプレンチの掛りがあまく外れ、パイプレンチが勢いよく顔に当たった。

守るべきこと

- ①パイプレンチ、トルクレンチの掛り具合をしっかりと確認してからトルクをかけること。
- ②作業のしやすい高さになるよう、可搬式作業台などを使用すること。
- ③もしものことを常に想定（予測）しながら作業すること。

(8) ガス圧接作業・機械式継手作業でケガをしないために(総括)

- 圧接作業では可燃性の危険物を扱うので細心の注意が必要！
- ガスボンベは振動などで倒れたりすることのないように設置しなければならない！
- 圧接作業の前の始業前点検を怠らず、しっかり確認してから作業にあたる！
- グライNDERに手袋が巻き込まれることのないよう注意する！
- 柱主筋が倒れたり傾いたりして起きる災害も多いので注意する！
- 柱主筋を切断する場合は切り粉の飛散に注意する！
- 重量物の移動など複数での同一作業は災害につながる場合が多い！
- パイプレンチで力を加える作業での災害も多いので扱いに気をつける！
- 決められた保護具を必ず着用しましょう！
- 圧接後のコブは熱いので、触れないように注意する！